

第3号様式

平成22年度 京都市立大学地域貢献型特別研究 (ACTR) 成果

分類 番号	A	取組 名称	京都市北部の生物多様性の保全戦略策定にむけた希少生物と地域生態系の把握, ならびにその体制整備に関する研究
研究代表者:	生命環境科学 学部 (研究科)	教授 :	吉安 裕
研究担当者:	京都市立大学 (吉安裕、中尾史郎、大迫敬義、平井正志 (敬称略)) 外部分担者・協力者 (荒木邦雄氏、黒田悠三氏、佐藤芳郎氏、狩野清貴氏 ほか)		
主な連携機関 (所在市町村、機関 (部署) 名)	京都府 (文化環境部自然保護課)、舞鶴市 (教育委員会) (加佐分室)、 青葉山レンジャー隊、舞鶴市加佐公民館 など		
【研究活動の要約】	京都市北部海岸域の貴重な植物および昆虫の生息状況とその特異性を、専門家の踏査や情報収集、市民との共同調査、ならびに遺伝子解析によって調査した。得られた成果を今年度で統合する2小学校の児童に披露するとともに、神崎海岸での観察会を開催した。地域研究者の育成と地元市民による地域生態系把握体制の確立の端緒として、地元市民とともに由良川河口域および由良ヶ岳山麓におけるバッタ類の調査の意義を伝達する学習会を開始し、実際に共同採集調査を行った。その後も地域市民が収集したバッタ類の標本を大学に收藏し、分布情報を共有する目的で環境省の3次メッシュにオーバーレイしてデータベース化することを開始した。得られた情報の一部を府のRDB改定等の自然環境保全施策基礎情報として提出した。		
【研究活動の成果】	島根県から石川県に及ぶ砂浜海岸の植生調査を実施し、京都市京丹後市久美浜町箱石の種多様度が最も高く、22種の海浜在来植物が生育することを見出した。特に、ハマエノコロ、ピロードテンツキならびにウンランなど近隣の砂浜では見られない種が確認されたことにより、同地区を保全対象として優位に位置づける根拠を取得した。スミレ類の遺伝子解析により海浜植物イソスミレの起源はニオイタチツボスミレの一部が乾燥した海岸砂地に侵出したことであると推定できた。久美浜湾周辺の新種ヒヌマイトトンボは絶滅し、舞鶴市のオヨギカタピロアメンボ生息場所はただ1か所であることを改めて確認した。さらに、海浜のオカヒジキに寄生するマダラメイガが世界初発見の新種であることを確認した。これら地域の貴重な生物を地元小学校児童 (神崎・八雲小学校) の郷土生態系の理解のために供した観察会を実施した。この他、地域からの参加者とともに日本固有のバッタ類の地域固有性と分布状況の把握調査を共同研究として開始した。		
【研究成果の還元】	H22/9/30 舞鶴市神崎海岸 神崎小学校・八雲小学校関係者等約40名「砂浜海岸の貴重な生物の観察会」 「空間統計学的手法による海浜植物コウボウムギ (<i>Carex kobomugi</i>) のクローン繁殖様式の解析」日本育種学会第118回講演会要旨集 (資源植物学研究室にて閲覧可能) 「絶滅危惧植物トウテイラン (<i>Pseudolysimachion ornatum</i>) の自生集団間及び集団内における遺伝的変異の解析」日本育種学会第118回講演会要旨集 (資源植物学研究室にて閲覧可能) 「Spatial structure of microsatellite variability within and among populations of wild radish <i>Raphanus sativus</i> L. var. <i>hortensis</i> Backer f. <i>raphanistroides</i> Makino (Brassicaceae) in Japan」 <i>Breeding Science</i> 60: 195-202.		
【お問い合わせ先】	生命環境学部 応用昆虫学研究室 准教授 :	中尾 史郎 Tel: 075-703-5618 E-mail: nakao@kpu.ac.jp	

参考（イメージ図、活動写真等）



京丹後市久美浜町箱石の海岸のみで発見されたハマエノコロ



調査の前日に座学で意義と方法を解説（舞鶴市西公民館）



大人から子どもまでの数十人でバッタ調査（8月）



神崎海岸における貴重な海浜生物の観察会（2小学校の児童、教員、地域の生物研究家とともに：9月）